

スーパーグローバル大学創成支援

「タイプA」

世界をキャンパスとして展開する 広島大学改革構想

申請者

学長 浅原利正

構想責任者

理事・副学長 坂越正樹

1. 10年後の広島大学の姿

教育力強化と研究力強化を両輪として
グローバル人材を持続的に輩出し、知を創造する

世界トップ100の 総合研究大学

卓越した研究拠点
の形成・展開

国際通用性の高い
教育の提供

流動性の高い
教育システムが確立

世界から優秀な
人材が集積



2. 世界から優秀な人材を惹きつける

実績・現状

- 69か国（地域）から1,678人（日本で21位）の留学生 アジアを中心とする途上国の研究者・高度人材育成が中心、特にASEAN諸国からの受入実績が多い
- 海外拠点の先導的モデル北京センター 現地政府との友好関係構築と共同利用拠点としての実績、北京を含め8拠点を設置
- 地域一体型国際化 県・市の公共宿舍を混住型学生宿舍として借り入れ

課題1

留学生数が少ない（特に、学部レベル）

課題2

卓越した研究拠点で、留学生（研究人材）を十分獲得出来ていない

取組1 戦略的海外プロモーション 全学生の20%が留学生

- ・ 学生の希望と教員とのマッチング機能強化
- ・ 海外常設10拠点（留学相談、留学相談総合窓口Webサイト）
- ・ 呼び水プログラム（サマープログラム、オンライン日本語教育）
- ・ 奨学金の強化（渡日前採用・大学独自・世銀・JICAなど）
- ・ 混住宿舎新設（新渡日留学生を全員収容）

取組2 グローバル入試の標準化

- ・ ネット出願システムで世界中から出願可能
- ・ SAT、GRE等、世界の実績ある学力審査を利用

取組3 英語による学位コース拡充

- ・ 全学部・研究科で開設
- ・ カンボジア歯学国際共同大学院（JDに発展）

取組4 研究拠点の共同研究相手との協働教育

- ・ 世界トップレベルの海外協定大学から教育研究ユニットを重点分野に誘致し、協働教育、女性研究者活躍ユニット設置

成果指標

留学生数
1,678人(H25)
▼
3,600人(H35)

国際共著論文数
450報(H24)
▼
2,700報(H35)

3. 国際流動性の高い教育システムを構築する

実績・現状

- 学生のニーズに応じた多様な留学機会 全32プログラム
- 新入生対象START 250名/年（新入生の1割）派遣
学生の留学志向向上に成果
- クォーター制導入（H27～）
- 院生の国際学会発表支援

課題1

日本人学生の海外留学率が低い
(全国で15位)

課題2

国際的学習環境の整備が不十分

課題3

院生（若手研究者）の組織的海外派遣が不十分

取組1

留学の阻害要因を解消

全日本人学生が留学

- ・ 産学連携による海外留学奨学金新設、クォーター制(第1ターム)を英語特訓タームとして活用、単位互換を保証（ナンバリング、UCTS活用徹底など）

取組2

DD・JDの拡充

- ・ 「グローバル教員養成」JD（バルセロナ大、ミラノ大）
- ・ 「国際マネジメント」JD（台湾国立政治大）

取組3

外国語による科目の拡充（全科目の50%）

- ・ 教員の50%以上が外国籍または海外で教育研究歴
- ・ 教員国際公募100%
- ・ 海外の著名な教員による集中講義やオンライン講義配信

取組4

海外サテライト・キャンパスの拡充

- ・ カンボジアに歯学国際共同大学院を新設・活用

取組5

世界トップレベルの協定校等と研究交流を強化

- ・ 協定校と共同で国際的外部資金獲得（EU、米国財団等）
- ・ 院生の国際共同研究への参加・海外派遣を強化
- ・ 成長型海外インターンシップ

成果指標

教員の受入・派遣

2,616回(H24)

5,400回(H35)

外国語による授業

397科目 (H24)

3,357科目 (H35)

外部資金受入

92.7億円(H24)

270億円(H35)

4. 国際通用性の高い教育を提供する

実績・現状

■ 広島大学独自の到達目標型教育 HiPROSPECTS

平成18年度から全国に先駆け実施（英国QAA*ルーブリックを参照）

*QAA：Quality Assurance Agency for Higher Education

■ 5年一貫大学院リーディングプログラム

放射線災害復興フェニックスリーダー
たおやかで平和な共生社会リーダー

■ 教育の内部質保証 全教育プログラムを評価・検証

課題1

国際的視点からの教育の質保証が不十分

取組1 教育の国際質保証



- ・世界的研究大学コンソーシアム（SERU）による教育の国際質保証
 - 広島大学の提案・主導で開始 -
(SERUが蓄積するデータ・知見を活用)
- ・連携大学間で学術領域毎の教育国際ピアレビュー
- ・国際的に質の保証されたルーブリック、GPAハイブリッド評価

成果指標

博士授与件数
376件(H24)
▼
1,100件(H35)

SCI論文数
1,726報(H24)
▼
5,400報(H35)

課題2

学生の主体的学習が不十分

取組2 質の高い学修時間の確保

- ・階層的TA制度により、学生の密度の濃い学びをサポート
- ・海外研究者を含む複数指導教員体制により論文指導を強化（eラーニングポートフォリオ）
- ・英語によるPBL、反転授業等のアクティブラーニングを全学導入
- ・国際主要学術誌に研究成果論文公表（ライティングセンター）

5. 学長・役員会による迅速な改革実施

実績・現状

- 年俸制、テニユアラック制度の全学的導入
- 大学経営企画室によるIR機能の強化

- 教員個人評価の導入と処遇への反映
(H26理工系で導入、H27人社系で導入)

課題1

教育・研究組織の硬直化

取組1 学長の戦略的リーダーシップの強化

- ・ 教員組織と教育組織・研究組織との分離
- ・ 役員会による、教員人事（採用・昇進）、教員の最適配置、学内経費配分の決定

取組2 徹底したIRに基づく大学のパフォーマンスモニタリング

- ・ 教員個人、各学部・大学院等、大学全体のパフォーマンスをモニタリング
- ・ 学内資源の最適配置の決定をサポート
- ・ 世界トップ100到達までの進捗を可視化し、改革を加速化

取組3 教員個人評価の国際化

- ・ 国際共著論文数、海外学会での招待講演数等の国際指標を重視

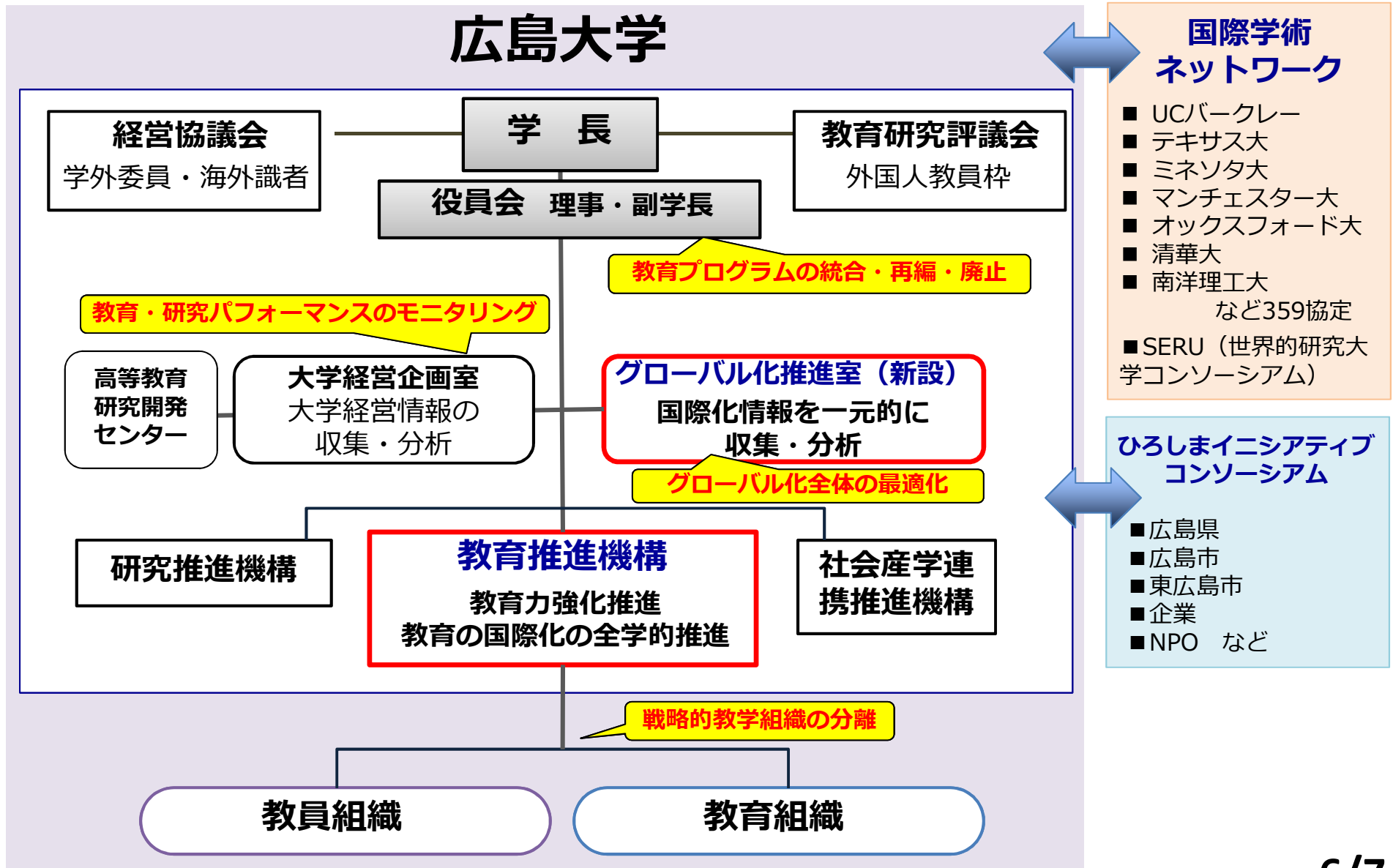
取組4 大学運営体制の国際化

- ・ グローバル化推進室による国際化情報の一元的収集・分析
- ・ 海外識者の経営協議会参画、教育研究評議会に外国人枠設定
- ・ 職員の20%がTOEIC800点以上を取得
- ・ 全学的にバイリンガル対応可能な教育研究支援体制を構築（留学生・外国人教員の教育研究環境を保証）

課題2

大学運営体制のグローバル化対応力の不足

6. 柔軟な組織体制と迅速な改革促進



7. グローバル人材育成による国際的評価の向上

世界をキャンパスとした 世界トップ100の総合研究大学

国際的評価の向上

志の高い人材が広島大学へ集い、
世界で躍動

世界で躍動する研究者を輩出
優れた学術成果を世界へ発信

常に変動し予測不能な人類社会の課題を
協働して解決することのできる人材を育成

国際通用性の高い教育を提供

リーディングプログラムの
コンセプトをモデルに全学で展開

国際教育研究
ネットワークの構築

協奏

卓越した研究拠点の形成・展開

世界的研究拠点の継続的創出
(卓越した研究拠点の選定・支援)

実績ある
「教育力」の強み

ガバナンスの強化

総合研究大学の
「研究力」の強み

徹底したIR分析

- 教員組織と教育組織の分離
- 教員個人評価
- 年俸制の導入
- 教員の最適配置